

■安藤更生　　美術史家。ライフワーク「鑑真大和上伝之研究」。出羽三山ミイラ学術調査をはじめ“ミイラ博士”とも呼ばれる。

あんどう こうせい
ヒ7/国産化・1900＝

東京市牛込区御納戸町で、フランス語を教える早稲田大学教授安藤忠義の五男に生まれる。母晋は篆刻家岡本椿所の娘。本名は正輝。兄は、3名は夭折し、博磨のみ。

日露戦争終・1905＝5歳：父が肺病になり辞職。駿河江の浦に避暑した際、艦隊の一隻が達磨船を撃沈し、母に背負われ避難。

満鉄発足・1906＝6歳：母が離婚し去る。牛込区山伏町の堤幼稚園に入る。

韓国反日暴動1907＝7歳：東京市立市谷小学校に入学、

アヲキ創刊・1908＝8歳：雑司ヶ谷に新築の家に移住し、私立音羽小学校に転校。唯一人袴で登校。_幼時より、家蔵の江戸時代の錦絵を好んで見ていた上、父の晩酌に侍し「大学」の講義を受け、祖母はつの影響で江戸時代の草紙類を濫読。_巖谷小波の「世界お伽噺」「日本昔噺」「日本歴史譚」を全巻読破し、{日本少年}{少年世界}を購読、_明治天皇大葬に全校総代として列席。父に連れられ、早稲田大学教職員園遊会に出、大隈重信にも会う。兄の本箱から持ち出した「浮世風呂」や、藤村詩集、人見東明の「夜の舞踏」を読む。

大正政変・・・1913＝13歳：卒業し、_早稲田中学に無試験入学。級主任の会津八一と、国語教員の山口剛は恩師になる。

第一次大戦始1914＝14歳：祖母はつが死去。突然成績が悪くなるも、野島泰一と親交、共に_浮世絵研究に熱中し酒井好古堂に日参。21ヶ条要求・1915＝15歳：進級試験に落第、のち会津八一に1年多く教われたと回顧。サトウハチローらと野球部に入るも、厳禁の両親に秘密で道具も揃わず。初めて夜の銀座を闊歩しカフェに入る。校誌{興風}に長編詩「歴山大王」掲載。

民本主義・・・1916＝16歳：突然成績上昇。洋画を描きはじめ、中学の先輩曾宮一念らに教えられ、多くの同志と親交

ロシア革命・1917＝17歳：父が、フランスより勲章を贈られる。{興風}に紀行文「帰りの汽車」掲載。中国の怪談を読み始める。

本格政党内閣1918＝18歳：脚氣に罹り箱根に転地療養。_日本美術史の系統的勉強を始め、和辻哲郎の「古寺巡礼」に影響を受ける。

ベルサイユ条約・1919＝19歳：父が脳溢血で倒れる。{興風}に「美育部展覧会評」を寄稿。卒業し、東京外国語学校佛語部に合格、詩人沙良峰夫と親交し始め、{マンガ家集団}を結すべく雑誌も発行。_連日会津八一の家に出入り。

大暴落・・・1920＝20歳：父が死去。_西城八十の知遇を受ける一方、会津八一を会長に{日本希臘学会}を興し幹事になる。

原敬首相暗殺1921＝21歳：会津八一に従い奈良旅行、板橋倫行と知り合う。雑誌{かなりや}に詩を発表し「ボードレール伝」を書く。

水平社結成・1922＝22歳：*西城八十と雑誌{白孔雀}を発行し筆名で詩も発表。卒業とともに、生家を出、家族・親戚と絶縁し、奈良日吉館に出奔、西城八十夫妻と奈良を歩く。以後毎年、日吉館に泊まる。早稲田大学文学部仏文科に入学。本郷あたりの下宿を転々とし、会津八一の落合秋草堂の留守番玄關掛を務めるなどしながら、多くの知人を得、特に、父の弟子だった大杉栄の影響で、終生アナキズムを奉じる。西城八十の紹介で、林俊衛に入門して油絵を学び、広津和郎と知り合う。中国の「門神」に興味を持ち始め、奈良飛鳥園の写真家小川晴暘の仕事を手伝い始める。“ロングチン”で知られた顎を手術し、更生と名乗る。

関東大震災・1923＝23歳：翻訳「ルノアルの言葉」。大震災の報に即帰京し無事の母に巡り合う一方、同朋大杉栄が虐殺される。_会津八一を中心に{奈良美術研究会}を創設し幹事になり、小川晴暘による室生寺の仏像撮影を企画。

護憲三派圧勝1924＝24歳：母が死去。同志の大將襲撃事件に連座し逮捕される。土井儀一郎一家と京橋に家を構え、築地小劇場の関係者が出入り。学費に窮して早大を中退し、株式会社アメリカ屋に入社、_雑誌{住宅}の編集長、

円本時代始・1926＝26歳：河合惣太郎の長女きよと結婚。求められて国際情報社に入り、_ {婦人グラフ}編集長になって、

金融恐慌・・・1927＝27歳：_著書「三月堂」を刊行し、諸誌に緒論を発表して行く一方、「東大寺要録」の研究に没頭、

共産党事件・1928＝28歳：同志と九州各地で{飛鳥写真展}を開催し、周辺を見学。_ {奈良美術研究会}を{東洋美術研究会}に変え、

世界恐慌・・・1929＝29歳：鈴ヶ森海岸{ボブラの家}に住む。_研究誌{東洋美術}を創刊。著書「美術史上の奈良博物館」。

海軍軍縮条約1930＝30歳：会津八一会長{早稲田大学東洋美術史学会}理事になる。健康すぐれずも、研究誌{東洋美術}編集責任者、

満州事変・・・1931＝31歳：不景気のため、アメリカ屋が解散して失業。日本橋通三丁目に移住。_カフェーなど銀座風俗を活写した著書「銀座細見」はベストセラーになるも、家計の足しにはならず、師会津八一からは、仏教美術と何の関係もないと叱責された。下中弥三郎の株式会社平凡社に入り、{大百科事典}審査部員となる。

五一五事件・1932＝32歳：恩師山口剛が死去。

芥川直木賞始1935＝35歳：世田谷区上馬に移住するも金がなく、徒歩で帰宅する一方来客絶えず。満州・朝鮮に赴き帰国後、腸チフスで重篤、大久保病院に長期入院。_奈良美術院が唐招提寺の鑑真大和上像を修理する機に調査にあたり、

二二六事件・1936＝36歳：発足した会津八一門下生の{木曜会}例会で、「鑑真大和上の模像について」講演し、{学叢}にも掲載。

日中戦争始・1937＝37歳：唐招提寺御影堂についても論文発表。北支派遣軍に従軍し、

健保+総動員1938＝38歳：参謀石井菊雄中佐の賛成を得て設立された{新氏印書館}の編集長を務めながら、“門神”や“唐紙”を収集。

第二次大戦始1939＝39歳：實藤恵秀との共著「華紙類選」を刊行。{興亜宗教協会}の古蹟担当理事となり、中国各地の実態調査、

大政翼賛会・1940＝40歳：長女夏野が誕生。盲腸炎から腹膜炎を併発し一時危篤に。{北京文化協会}を設立。*鑑真伝をライフワークにすべく、初めて揚州に赴き、僧海野昇雄と知り合い、以後、連年揚州に赴いて、鑑真のことを調査、{新氏印書館}の刊行書のうち、編集にあたった「北京案内記」は、名著と言われ、評価が高い。

日米開戦・・・1941＝41歳：{新氏印書館}の刊行書のうち、編集にあたった「北京案内記」は、名著と言われ、評価が高い。

・・・1942＝42歳：妻の父が死去。次女椿が誕生。前年来、北京大学副教授の考古学者姚鑒と中国各地を回り、“門神”を収集後、悪性赤痢に罹り病臥。_鑑真伝の執筆を始め、

年金+総武装1944＝44歳：恩師周作人の還暦祝いに、唯一の日本人として参加。

敗戦・・・1945＝45歳：三女彩子が誕生。敗戦直後には、ほぼ脱稿するも、{新氏印書館}は退社となり、満鉄で引き揚げを待つ。

新憲法公布・1946＝46歳：ようやく帰国して早大講師となり、上京するも、栄養失調で衰弱。小川晴暘の写真で「南都七大寺秘仏」、

新憲法施行・1947＝47歳：松浦和上の好意で、京都壬生寺に居住。「正倉院小史」、

三大事件・・・1949＝49歳：東京世田谷に転居。小杉一雄との共訳で、本邦初の全訳「西遊記」全4巻、

朝鮮戦争始・1950＝50歳：早大日向考古調査団を組織して副委員長となり現地調査。鑑真上陸地の鹿児島坊津に向かい地理調査。

独立回復・・・1951＝51歳：

メーデー事件・1952＝52歳：早大書道会会長となり、以後長年尽力。同志と相図って、瀧川政次郎を理事長に{地方史研究所}を設立、

TV放送始・・・1953＝53歳：その熊野地方総合調査美術史班長となり現地に。その後も、伊豆、出雲はじめ、諸地調査。三宅島で金剛観音像を発見。松下昭の紹介で井上靖と知り合う。*「鑑真大和上伝之研究」成为、

自衛隊発足・1954＝54歳：{東洋美術研究室}を新築学生会館に移転{会津博士記念東洋美術陳列室}とする。_文学博士号を取得して、55年体制始・1955＝55歳：出雲調査の帰途、鳥取の知人に鼻病の手術を受ける。_早大文学部教授になる。

国連加盟・・・1956＝56歳：慶應病院に入院、肺気腫の診断受け治療。_恩師会津八一が死去。以後連年、追悼その他諸文執筆し講演。

なべ底不況・1957＝57歳：井上靖が、「鑑真大和上伝之研究」をもとにした小説「天平の甞」を発表、

インスタント・1958＝58歳：会津八一全集刊行委員として諸巻に編集後記。_「鑑真」を刊行し、即再版となる一方、新潟県の寺で、日本最古の弘智法印入定ミイラ、次いで童女のミイラを調査し、{毎日新聞}に「日本のミイラ」を掲載、

安保闘争・・・1960＝60歳：写真家小川晴暘が死去。*「鑑真大和上伝之研究」を出版。井上靖に鑑真大和上生誕記念法要の講演を依頼するとともに、特別参加を得、{毎日新聞}の後援、吉川英治の多大の寄付を得て、出羽三山ミイラ学術調査。これを機に{日本ミイラ研究グループ}を組織し委員長。以後、諸地で諸ミイラを調査、

タイタイ病始・1961＝61歳：東京教育大学入試問題に関し、家永三郎と「白鳳論争」。「日本のミイラ」を刊行し、NHK(人生読本)で「鑑真和上」、{趣味の手帖}で「ミイラは語る」放送。

全国総合計画1962＝62歳：「奈良美術研究」。早大海外研究員として、西欧各国を調査旅行し、

TV宇宙中継始1963＝63歳：帰国。弘智法印の故郷千葉県大浦村を歩く。改訂「鑑真」、「唐招提寺」を刊行。鑑真和上円寂一千二百年記念{訪中日本文化界代表团}団長として、井上靖らと訪中、国慶節に招かれて挨拶し、恩師周作人を訪問。

東京リビヅカ1964＝64歳：西城八十「かなりや」の歌碑設計審査のため、那智勝浦町に赴く。鑑真大和上逝世千二百年忌で、唐招提寺より訳註「唐大和上東征傳」刊行。早大で講義中貧血起こり、以後不調となるも引受けた庭球部長は続ける。

大学紛争始・1965＝65歳：訳註「中国の印章」。鑑真上陸地鹿児島県坊津からの依頼で、記念碑の碑文を書いて送る。

いざなぎ景気1966＝66歳：多摩美術大学講師を兼任。東大寺信徒総代を承諾し、観光税問題に尽力。

美濃郡都知事1967＝67歳：坊津に鑑真上陸記念碑が建つ。吉川弘文館の人物叢書146「鑑真和上」。

全共闘・・・1969＝69歳：大学紛争激化で、{会津博士記念 東洋美術陳列室}閉鎖。_腫が発見され、国立癌センターに入退院し、

大阪万博・・・1970＝70歳：「南都逍遥」。奈良訪問を兼ねて、万博見学などし、西城八十の死去に、葬儀委員長を務めるなどしていたが、

、病状悪化、早慶対抗庭球試合を、病軀をおして観戦、部長として最後の訓示、一同奮起して優勝するのを見届けたのを最後に、肺癌および尿毒症のため、_没した。

1977年、中公文庫で「銀座細見」が出版され、1996年、自らと、鑑真伝の影響で小説「天平の甞」を書いた井上靖の2人の功績をたたえる顕彰碑「天平の甞」が、唐招提寺境内に建てられ、除幕式が行われた。

Wikipedia「安藤更生」、安藤更生年譜作成委員会編「安藤更生年譜著作目録」、